

組織的な授業づくり・授業改善 ～校内研究授業を通して～

今年度、第1回目の校内授業研究として、数学科がスタートを切ってくれました。教科会で指導案検討を行い、当日の授業者ではない他教員が事前授業を行うのを教科会全員で参観し、再度練り合い修正する、という授業づくりの取組（PDCA）が今年度も継続して行われています。

校内研当日には、授業前に教科会の代表者がこれまで練り合ってきたことを基に授業の参観ポイントを説明し、その視点で授業を参観後、論点に沿って協議を行うことで数学科のみならず、全教科で授業改善への意識を高めることができました。



授業参観シートには「単元デザインで気の付いたことや自分の教科で単元をデザインしていくために参考になったこと」という設問がありました。みなさんはどのようなことを書き留めましたか。私、松本は「日常事象を数学の世界に乗せて数学を学ぶ価値に気付かせようとしている点。(陸上トラックの)スタート位置の差は幅に関係しているなど、結果に驚きを持たせられるようにしている点。」を挙げさせていただきました。驚きや発見があり、生徒にその教科を学ぶ価値を実感させられるような授業にしていかなければと自分に言い聞かせたことでした。

本校では、深い学びの実現に向けて「問題」「めあて」の検討や、「まとめ」と「めあて」の関連性の検討、「見方・考え方」を働かせる課題と場面の検討等が大切に行われています。「単元で付けたい力は何か」を基に、今後もこれらの点を意識して教科会で授業づくりを行っていきましょう。